

秋の土づくり運動について

～ いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！ ～

富山県米作改良対策本部

1 趣旨

県内水田では有効態ケイ酸や交換性加里が不足しているほ場がかなり多い。さらに、近年は、登熟期間の異常高温により、水稻及び大豆の収量・品質が低下している。

このため、高温等の気象変動に打ち勝つ、水稻・大豆の高品質・安定生産に向けて、“いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！”をスローガンとして、県下全域で「秋の土づくり運動」に取り組む。

2 運動期間 令和7年9月15日～11月15日

3 推進事項

(1) 土壤改良資材の施用

土壤改良資材の施用により、ケイ酸や加里等の不足養分の補給と保肥力の向上を図る。また、石灰質資材やアルカリ資材の施用により、酸性矯正を図る。

- ・ケイ酸質資材や加里を含む資材、腐植酸やゼオライト等の粘土鉱物を含む資材の施用
- ・石灰質資材やアルカリ分を含む土壤改良資材の施用

(2) 有機物の施用

有機物の施用により、土壤中の腐植の増加、保肥力の向上を図るとともに、加里等の不足養分を補給する。

- ・牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、発酵鶏ふん等の施用
- ・地力増進作物の作付け

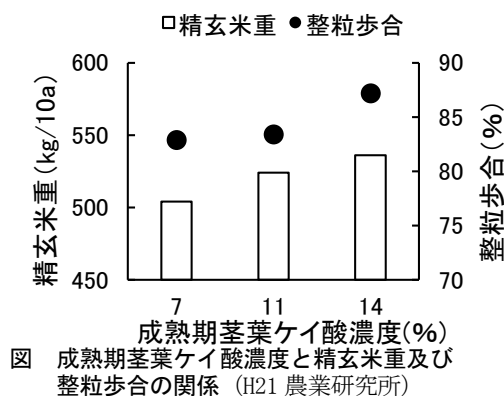
(3) 秋耕の実施

- ・稲わらも有用な有機物であり、加里も多く含んでいる。水稻収穫後から気温の高い10月（ひこばえが出穂する前）までに深さ10cm程度で秋耕を行う。
- ・秋耕前に土壤改良資材や堆肥を施用し、秋耕後には排水溝の設置等によりほ場の乾きを促進し、稲わらやもみ殻の腐熟を図る。
- ・秋耕による稲わらの腐熟促進により、翌年の田植え後のわきの発生が防止できる。

(4) 深耕の実施と排水性の改善

- ・ロータリによる秋耕と春耕との2回掛けや、プラウ等の活用による深耕で、作土深15cm以上を確保する。
- ・大麦、大豆及び園芸作物等の作付予定のほ場では、前作物の収穫後速やかに額縁排水溝を設置するとともに、心土破碎の実施又は弾丸暗渠を施工する。

稲体のケイ酸濃度が高いほど、
精玄米重が多く、整粒歩合が高い



【秋耕の効果】

- ①土づくり（稲わら等の有機物の施用）
- ②翌年の田植え後のわきの発生防止
- ③ひこばえの発生防止
斑点米カメムシ類の発生量の低下
翌年水稻作付時の漏生稲の発生防止
イノシシ・サルの水田への侵入防止
- ④ニカメイチュウの発生密度の抑制



写真 ロータリによる耕起